

愛隣の風

愛隣園だより
第1号
発行責任者
迎田 浩二



愛隣園 基本理念

『共に生きる』

愛隣園 施設長 迎田 浩二

子ども達と、地域の皆様と、共に生きる

昭和二十五年に家庭裁判所少年試験観察事業「愛隣園」として、ここ山鹿市津留の地に愛隣園の第一歩が初代理事長によって創められました。それから六十六年間、日々継続されている思い、生業でもあります。

現在の児童養護施設愛隣園は、我が国が推し進めている小規模ケア化の制度を利用した佇まいとなっており、家庭養護に位置づけられる小規模住居型児童養育事業「ファミリーホーム」の運営も法人事業として行われています。このことは、先代の施設長が制度より先行して子どもたちの養育には小規模で家庭的な仕組みが良く、大規模集団居住型(大舎制)の仕組みから変更されたものであります。

施設内が完全に小規模になって約十年、大規模な園舎で暮らした経験のある児童、職員も数えるほどになり、一グループに八名の児童が、

己の如く
汝の隣に
愛すべし

マタイ福音書五章一節

法律の専門家が、イエスを試そうとして尋ねた。「先生、法律の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」

イエスは言われた。『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』
これが最も重要な第一の掟である。

第二も、これと同じように重要である。
『隣人を自分のように愛しなさい。』
法律全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。」
(マタイ福音書二十一章三十五〜四十節)

新入職員紹介



今年四月から働かせてもらっています、西川絵美です。入社して五カ月がたったのまだまだ慣れないことも沢山あり、周りの先生方や子どもに沢山サポートしてもらっています。少しずつではありますが、出来ることを増やして、子どもと楽しく過ごしていけたらと思います。宜しくお願いします。



今年度から、ファミリーホーム森の家で働くことになりました、岩野愛美です。色々ご迷惑をおかけすると思いますが、宜しくお願いします。

着衣泳法講習会(職員向け)

不慮の事故に備え、消防士3名を招き着衣泳法講習会を実施しました。「浮いて待て!」。子供たちが溺れかけた時の第一声です。119番連絡後、消防隊到着まで、浮く物を与え続けることが大事であり、大人だからと言って飛び込み助けようとする危険な目にあうことや着衣したままの入水は、なかなか自由がきかないことを学びました。



子ども達への自転車教室

警察署交通課指導係警部補を招き、小学校グラウンドにて白線引きによる模擬交通指導と、幼児から小学生までを対象にした自転車教室を実施しました。自転車に乗る前の後方確認から、横断歩道は押して渡り左側走行し障害物を車道に出過ぎないように追い越したりを一人3、4回ずつ練習することができました。子ども達は、面白がって練習しているところが印象的でした。



里親制度に興味のある方大歓迎!!

現在、さまざまな事情により、家族と暮らせない子どもたちが増えています。そういった子どもたちを、「もう一つの家庭」、「地域」で抱きとめることは出来ないでしょうか。子どもはみんな、私たち社会の子です。

里親制度とは、さまざまな事情により家庭で生活できなくなった子どもを、自分の家庭に迎え入れ、温かい愛情と正しい理解を持った家庭環境のもとで養育する制度です。施設には、里親支援専門相談員が配置されています。相談員は、登録されている里親さんの相談・関係機関への働きかけ・制度の周知啓発等を行っています。里親制度に少しでも興味がある方は、下記にご連絡ください。

0968-43-2773 森田まで

園内算数教室始めました!!

元中学校長(現在市教育委員会)のご協力のもと、算数教室を開始しました。学力補強のため、1対1を主とした学習法を行われており「分かりやすい」と好評で、夕食後子ども達が集まっています。

月曜:19:00-小学生 木曜:19:00-中学生

1対1の指導ができることを期待し、学習指導ボランティアを募集しています。ご希望の場合は、園の方にご連絡ください。



0968-43-2773



編集後記

リオオリンピックのこの年、念願の創刊を発行する事ができました。本誌から園の子ども達の暮らしや活躍ぶりを感じて頂けたでしょうか。

これからも開かれた園、地域と共に生きる園でありますよう発刊して参ります。どうぞ皆様の温かいご支援をお願い致します。

小さな画伯の作品展
のぞみ画伯(小学三年)
テーマ 「口の先生」
絵を描くのがとても
大好きな画伯の自信作
です。



温かいご支援に感謝申し上げます

(H28年4月からH28年9月まで)

- 鹿本農業協同組合園芸部会 様 福田めぐみ 様
- ㈱熊本ゼミナール 様 ㈱積文館書店 様
- 久佐賀 脩・眞里 様 ㈱ダスキン 様
- まるごみ薩摩本部実行委員会 様 中里 誠 様
- 九州納豆組合 様 九州労働金庫 様
- NPO 法人ブリッジフォースマイル 様
- ㈱ミ・ルアール 様 ㈱イエロースタジオ 様
- ヤマサキ製パン(株) 様 (有)真生堂 様
- (社)生命保険協会 様 ハーゲンダッツジャパン 様
- 児童養護施設あおぞら 様 ㈱行楽 様
- ㈱マルハン 様 野中信弘 様
- ギャップジャパン(株) 様 (順不同)

通常三名の職員の支援を受けて個室での生活を送っています。家庭イメージの体験や全国的な傾向ですが、被虐待児、発達障害等を抱えた子どもの措置が近年増加しており、その子供たちの生活、心のケアには大きく効果があると考えています。国家としても十五年後の広がり期待をしている状況です。

また、東北大地震や四月の熊本地震などの災害が相次ぎ、日本中に多くの不安を抱えた子どもたちが暮らしています。

ある日本の男性有名歌手の歌で「ひとつ」という歌があります。その一節に

ひとつになって

ずっといっしょに

共に生きる

ひとつになって

君と生きる

共に生きる

とあります。集団は小さく分かれても、国家、地域はひとつ。就業内容もずっと一緒に暮らし難い職場ですが、脈々と思いが継がれている「共に生きる」を継続し、子どもたちにとっては、人生の一瞬であるかもしれませんが、そこにでもこの思いを注ぎたいと考えています。

愛隣の風創刊にあたり、少しでも愛隣園の香り(風)が届けられたらと思います。

AILINEN SUMMER 2016

くまもんキーホルダー作り



八月十八日 園の子どもがお世話になっている里親さんが所属されている山鹿地区更生保護女性会の皆様において頂き、子ども達にくまモンのキーホルダー作りを教えてもらいました。とても可愛いキーホルダーが出来て、子ども達も大変喜んでいました。

マリンワールド

八月二十二日 園とファミリーホームの子ども、職員全員が参加する大型レクリエーションで福岡のマリンワールド海の中道水族館へ行きました。大型バス二台を貸し切り、行きにゆめタウン福岡内のバイキングレストランで昼食をとり、その後水族館へ。珍しい魚を興味津々に見る子どもやメインのイルカショーで前列に座って水しぶきをあびてはしゃぐ子どもなど、初めて行く子どもも多かったようで、とても楽しいレクリエーションとなりました。



施設球技大会(野球、バレー)



★野球 主将 ーくん★
私は、施設球技大会でいい思い出ができたと思います。五年間の集大成でしたが、結果は3位で悔しかったです。でも、最後まで「愛隣園らしい野球」をする事が出来ました。本当にありがとうございました、愛隣園野球部！

★バレー 主将 Mさん★
私にとって最後の施設球技大会でした。七年間園バレーをとおして、部員とぶつかり合い涙する日々、主将を辞めた日もありました。試合では、一致団結しプレイすることができた良かったです。愛隣園バレー来年も頑張れ！

山鹿燈籠祭り(少女燈籠)

八月十六日に開催された山鹿燈籠祭りの少女燈籠踊りに小学生3名、千入燈籠踊りに中学生3名・職員4名が参加しました。初めての体験だった子ども達にとってもいい思い出となりました。



田植え



六月二十五日 園では恒例となっている田植え(手植え)を行いました。泥だらけになりながらもみんなで楽しく一本一本植えました。稲の成長を身近に感じながら秋の収穫が待ち遠しく思います。

ハウス紹介

【グリーンハウス】定員8名(男子)

構成：小2名、中2名、高4名、職員3名

小規模であることの良さを生かし、年齢に応じた自立支援を行うよう心がけています。日々の生活場面での、衣食住の基本的な自立支援はもちろんのこと、様々な行事や、レクリエーションなどの楽しみを通して職員と児童がコミュニケーションをとりながら共に児童の自立につながる工夫を図っています。児童、職員共に笑顔で安心して過ごせるホームづくりができるようにこれからも頑張っていきたいと思っています。



【ホワイトハウス】定員8名×2ホーム(好ゆ)

構成：幼1名、小5名、中3名、高4名、職員6名

元気いっぱいの小学生、思春期の中高生が同じホームで生活する中で、子ども達の思いや個性を受け止めながら、家庭的な、雰囲気の中で一人ひとりに温かく対応できるような関わりを心がけています。生きる力を育むために、情緒の安定を大切にしながら、基本的生活習慣の確立を目指しています。日々の生活の中で、うまくいかないこと、失敗を繰り返すことも多々ある中で一つひとつを克服し、自信につなげながら成長していけるよう子どもたちと色々な経験にチャレンジしていきたいと思っています。



【レインボーハウス】定員8名(男子)

構成：小3人、高5人、職員4名

今年は高校3年生の子どもが1人いるので、進路決定に向けて頑張っている最中です。卒園と考えると寂しくなりますが、今できることをしっかりサポートしていこうと思っています。今年の夏休みは、海水浴と海辺でBBQ、ボーリングに行ってきました。子ども・職員、暑い日差しに負けることなく、朝から晩まで思いっきり遊びました。帰ってからは花火も行い、思い出に残る一日となりました。



【地域小規模児童養護施設 彦岳ハウス】定員6名(男女混合)

構成：高1名、中1名、小4名、職員4名

平成19年4月から運営しており、今年度で10年目になります。本園から400m程の所にある一軒家のホームで、皆で毎日元気に楽しく生活しています。ホームの特色として、より一層家庭的に子ども達が生活できるように、子ども達と一緒に買い物へ行ったり、全調理をホームの職員が行ったりしています。



【オレンジハウス】定員8名(女子)

構成：小2名、中4名、高2名、職員3名

小学生以外は個室で、それぞれ妖怪ウォッチのカレンダーを張ったり、ジャニーズの写真を飾ったり自分好みの部屋に仕上げている。喧嘩と仲直りの繰り返しですが、今年の夏休みは無理を言って、ハウス全員で杉乃井ホテルに一泊させてもらい、プール遊びや夜のビュッフェを満喫しました。個性豊かな子どもたちは、ぶつかり合い、手を取り合って思わぬ成長ぶりを見せてくれています。

